

令和2年11月11日移動教育委員会・意見交換要旨

はままつの教育について

(参加者1) 私はこども園に勤めており、入った時は昔ながらの一斉保育をしていたが、今は自分らしさや主体性を大事にする保育に変わりつつある。教育長講話の中で「はままつの教育」として、自分らしさを大切にすることや自分のやりたいことや夢や希望を持つことを大事にしていることが聞いて安心した。園ごとに様々な教育を受けた子達が小学校に入って一斉に教育を受けるため、保護者は不安を感じているが、「はままつの教育」の芯となる部分を学び、園児や保護者へ伝えていこうと思った。

(渥美委員) 私が教育委員を引き受けた理由は、日頃仕事において非行に走った少年や家庭内の離婚についての問題を扱う中で、非行はなぜ起こるのかを考えた際、教育の中でも大学や高校ではなく、小中学校の教育が大事であると思ったためである。しかし教育に関する200冊を超える書籍の内容と自分が40年近く弁護士をやって感じたことを照合すると、子供の教育の始まりは小中学校では遅く、幼稚園、保育園、さらには0歳児から10歳ぐらいまでの幼少期の教育の大切さを実感している。また教育科学的に、アメリカのハーバード大学の研究でも、社会人になった時の人間形成は保育園時代の過ごし方が影響しているとの結果が出ている。私は60歳を過ぎてやっと気づいたが、就学前の子供を持つ若いお父さん、お母さん、先生方が、その部分に思いが至っていることが素晴らしい。

(安田委員) 私も先ほどの感想をととても頼もしく、嬉しく聞かせてもらった。幼稚園や保育園で様々な思いによって育てられた子供達を、小学校で受け継ぎ、中学校、高校へ繋げていくことができれば良いと思う。特に小中学校の連携は比較的学区がはっきりしているため提携しやすいが、幼稚園・保育園から小学校への連携は、私立・市立を含めたくさんの幼稚園・保育園があり、そこで様々な教育を受けた子供達が育んできたものを小学校でどう受け止め、どう育ていくのが大きな課題である。幼・小連携に関しては、小学校の先生達も努力している。幼稚園と小学校の教員の交流を今後もっと進め、うまく繋がっていくと良いと思う。

(参加者2) 静岡県の県政運営の基本理念の中に「富国有徳の美しい富士の国」とあり、「有徳の美しい富士の国」という表現に、静岡県は高い理念を持って行政を進めているのだと感じた。ある作家は、日本の戦後教育の最大の失敗は、学校も家庭も社会も「徳」を教えなかったと言っている。よく「知育・徳育・体育」という言葉で表されるが、戦後教育は「知育」と「体育」はかなり進んだが、「徳育」はなかなか進まず、親も「知」だけ伸びればよい、学校さえ良いところに行ってくればよいという感覚があり、人に迷惑をかけない、感謝をする、困っている人に手を差し伸べることができない等、知的能力は非常に高

いが、人間として一番大事な徳の部分が育っていない人が多いように感じる。「徳」の教育における人間形成が、非常に大事であると思う。

（参加者3）私は通訳ボランティアで外国人に観光案内をしているが、浜松の魅力の一つに定めるのが難しいと感じる。浜松に暮らしていても地元のことを知らない人も多く、様々な浜松の魅力が知られていないことを残念に思う。新型コロナウイルスによって、修学旅行先の変更を余儀なくされている中で、浜松の魅力を再発見するために、修学旅行を地元で開催してはどうか。修学旅行としては安全の確保等で難しいかもしれないが、これからの未来を担う生徒一人一人が地域の魅力を調査し、計画を立て、一人旅を試してみたいか。人づくりという面でも、有用ではないか。

（指導課長）まず「徳」の教育に関連して、浜松市の学校における道徳教育について説明する。「はままつマナー」という冊子があり、その中で「時を守る」「場を清める」「礼を正す」の3つを基本として、小学校低学年から中学生まで学年に応じて心を育てる方法を示している。道徳の時間や朝時間等に読み、考えることで、大切にしたいことを学んでいる。また、道徳の授業では、様々な見方を養ったり、考えて議論したりできるよう指導方法を工夫している。

もう一つ、郷土を知るという点については、修学旅行を一人旅で行うのは難しいが、浜松を知るとは大事であると考え、小学校3年生以上で、総合的な学習の時間に地域を知る取組を行っている。テーマを設けて地域を探検したり、校外学習等で学区外に出かけ、グループや学級単位で見学をしたり話を聞いたりしている。また、郷土の伝統芸能を学ぶことで、郷土を大事にする取組を行っている学校もある。

（参加者4）長年、幼稚園や保育園で働いてきたが、食物アレルギー、アトピー、発達障害などの子が昔と比べて随分増えた。食べ物や環境が大きな要因であると考え、食育や環境に関することを学び、出前講座を小学校で行っているが、最近BPM教育というものを知り、見方が随分変わったためご紹介させていただく。これはドイツの心身医療のBPMを基本に、様々な研究が加わってできたものだそうだが、子供達の内面を捉えて関わることで、不登校児に良い影響が出たりしている。大阪市の小学校の先生は、子供たちを内面から理解していなかったことに気づき、BPM教育を学びながら4年ほど実践したところ、子供達に良い変化が現れ、先生自身も人の内面を理解する力がついたそうだ。そのような先生が増えれば、子供も救われると思うし、先生も子供達との良好な関係を築くことができるようになると思う。

（渥美委員）「徳」の教育については同感であるが、私は日本の教育は世界一だと考えている。例えば、阪神淡路大震災や東日本大震災等の大災害が起きた時に、外国では私利私欲

のために略奪が起きるが、日本ではあり得ない。それは幼い頃から親が教育をしている成果だと思う。外国では落ちているスマートフォンを見たら「ラッキー」と思うそうだが、日本では持ち主を探す。この差は非常に大きいと思う。中国の先人の言葉に「徳は才の主。才は徳の奴。」という言葉がある。これは「人間性や徳は才能の主であり、才能は人格や品格の奴隷である。何が大事かと言えば、徳が大事である。」という意味である。文部科学省の教育でもこの教えを目指していることは間違いなく、常日頃学校で教えている成果が災害時等の行動に表れていると思う。これは日本の教育の成果と考える。

幼小の連携について

（参加者5）私は幼稚園の園長をしており、小中学校のPTA会長等の経験もあるため、どちらの状況も理解しているが、現在の幼小連携に疑問を感じている。3月中旬に幼稚園を卒園し、2週間程度で小学校1年生に変わる子供たちの環境の変化は計り知れず、心の揺れは大きいと考えるため、小学校1年生にはそれを受け止める力量のある先生を配置してもらいたい。数年前から小学校の先生が、次年度入学の子供達健康の様子や普段の生活の様子を聞き取りにくるようになったが、幼稚園と保育園の生活の違いすら知らない先生もいる。学校の先生が普段から近隣の幼稚園や保育園の情報を気にかけて、どのような生活を送っているかを知ってもらえれば、園児を安心して小学校へ送り出せる。幼稚園と小学校で密に情報交換をすることが、子供達にとって良いことであると思う。

（参加者6）私はこども園に勤めている。園の方針により、子供の主体性や自己肯定感を高めるよう心掛けているが、保護者からは学校教育を見据えた活動を求められ、とても残念に感じる。教育長講話にて、浜松の教育の目指すところを知れたため、保護者にもぜひ知ってもらいたい。また、各学校の先生方にも浜松の教育の基本をおさえ、子供扱いせず一人の人間として子供達に向き合っていただきたい。

（田中委員）公立の幼稚園と小学校はうまく連携できていると感じるが、私立となると行政側も躊躇するところがあるかもしれない。小学校の先生が幼稚園の現状を知ることは大切だと思うため、お互いが歩み寄れるよう、行政側が努力してもらいたい。

（教育長）私も幼児教育は大変重要と感じている。1小学校あたり30園程から子供達を受け入れる小学校もある中で、生活してきた環境の違いから子供の様子も様々あり、小学1年生の対応に非常に苦慮している。小学校には働き方改革を進めてもらい、時間の許す限り、教務主任や養護教諭だけでなく、たくさんの先生に幼稚園・保育園の様子を見てもらいたい。本市では、幼稚園担当のこども家庭部幼児教育・保育課と教育委員会の合同で幼児教育推進協議会を設置し、私立幼稚園や保育園も参加し、幼小の課題や幼児期に育てたい力等について、年に数回話し合いを行っている。また、新たな施策として、浜松型の幼

児教育アドバイザーを希望する園へ派遣することとした。他には、市立幼稚園の取組になるが、幼稚園園長と小学校教頭等の交流人事等も行っている。今後も様々な形で常に連携を深めていきたい。

教員の働き方改革について

（参加者7）国の指針で部活動の在り方が変わるという事を聞いた。休日の部活動等が地域クラブに委託されているところも増えているようだ。指導のために休日も時間を割く先生の健康面が心配である一方、指導の楽しみを奪ってしまうことにならないかも心配している。また、子供達が楽しく部活動を続けられることが一番大事である。浜松市の今後の部活動の在り方について、方針等決まっていることがあれば教えてもらいたい。またテーマ外であるが、浜松市のアルミパックでの米飯提供が、教育的にも食育的にも良くないと思うため、早めに切り替えていただきたい。

（指導課長）浜松市では、国のガイドラインを受けて部活動運営方針を策定し、これに沿って活動を進めている。もっと部活動をしたい子供や保護者たちの思いに少しでも答えつつ、土日のどちらかは教員が休めるように、部活動のない休日に保護者や地元の指導者を中心とした中学校地域クラブを実施している所もある。今年度、百数十クラブが設置された。教員は、限られた時間の中で部活動の指導を行い、それを引き継ぐ形で地域クラブが、学校と連携を語りながら活動を進めるといふ、浜松型の部活動の在り方が出来つつある。今後も国の動向を見ながら、より良い部活動の在り方を検討していきたい。

G I G A スクール構想について

（参加者8）浜松市におけるG I G A スクール構想について質問する。G I G A スクール構想により、情報通信技術を用いて、いつでも、どこでも、だれもが、双方向型のオンライン指導を受けられるようになると理解している。本年度は、新型コロナウイルス感染症により、全国的に休校を余儀なくされた中、オンライン授業を実施したのは5%程度と報告されており、日本は学校でのICT活用がOECD加盟国中で最下位であり、実用化までには時間がかかりそうである。実用化されると、離れていても「対面」の授業が受けられるため、小規模校等で複数校を結んだ合同授業ができる。また、台風等により休校が予測される場合、あらかじめオンライン活用を計画することもできる。その他、オンライン授業を発展的に捉え、授業で扱う化学の実験を、教育センターの慣れた職員が行い発信することで、学校は様々な実験を容易に閲覧することができ、さらには学校に保存されている薬品等が減り、予算の削減にもつながるのではないかと思う。また、課題として、現在学校に来られない子供たちも多数存在する。病気や不登校等、様々な理由で学校へ来られない子供達のために、オンラインで授業を配信し、タブレットを活用して家庭で授業を見ることが、バーチャルながら学校に居る感覚を得られる。いずれにせよ、将来的にはオン

ラインと対面教育をうまく組み合わせた教育を推進していく必要がある。国においてはデジタル庁、浜松市においてはデジタル・スマートシティ推進事業本部が設置され、また、市政を語る会では市長自ら今年度中の校内ネットワーク環境の増強整備と来年度のICT支援員の配置を公言している。今後、スピード感をもった推進が期待される。これらの取組の進捗状況や将来の構想について、教育長に伺いたい。

(教育長) GIGAスクール構想に関わる取組の進捗状況、将来の構想について話をします。最初に、ICT環境整備の状況についてです。1つ目は、児童生徒1人1台、タブレットパソコンの配備を進めています。具体的には、令和2年度に国の補助金を活用して、小中学校に児童生徒約7割にあたる4万7000台分の導入を予定しています。ただ品薄で今年度中の全台導入は厳しい状況です。残りの3割については、令和3、4年度に導入していく。次に、ICT支援員の配置については、学校現場で教員のICT機器の活用支援を含めて委託する予定です。今年度中に委託業者を選定し、令和3年度から5年度の3年間で、各小中学校に週1回程度訪問してもらう予定です。次に、オンラインでの学習環境についてです。今年は新型コロナウイルスが感染拡大して、長期の休校を余儀なくされたこともあり、今年5月に全児童生徒、教職員にGoogleアカウントを与え、クラウド型の学習プラットフォームを整備しました。将来の構想として3点挙げると、1点目は、クラウド型学習プラットフォームにて、各学校が学習動画や学習プリント等を直接児童生徒に配信できるようになったため、今後活用を促していきたい。2点目は、2種類の学習アプリケーションの導入です。1つ目は、個別学習用のデジタルドリルアプリです。学習状況に応じた問題出題ができたり、自動的に採点されたり、学習履歴が即座に確認できるということで、個別に対応できるようになる。2つ目は、共同学習用の練り合いアプリです。プレゼンテーション用の資料を児童生徒と一緒に作成したり、個人で作成したものを即時に共有・分類できるため、学びを深めることが期待されます。3点目は、不登校や発達支援教育、外国人支援への活用です。デジタルソフトやクラウド型の学習プラットフォーム、オンライン会議システムを活用し、個々のニーズに応じた特別な支援を行えるのではないかと思います。また、一番重要なのは、教職員の資質、指導力の向上であると考え、教職員のICT活用指導力を向上させるために、教育センターでの研修を充実させたり、各学校に情報化推進リーダーを置き、校内での研修体制を充実させる。まとめになるが、ICTによって今までできなかった個別最適化された学習ができるようになるため、浜松の子供たちを誰一人取り残さないように教育していきたい。それから、感染症の拡大や災害等の緊急時においても、ICTを活用することによって学びを止めない、学びの保障ができる体制を整えていきたいと思う。